

a ミッション	自ら学び心豊かでたくましく生きる子どもの育成	aビジョン ○挨拶と笑顔あふれる学校 ○花いっぱい美しい学校 ○地域に開かれた学校	尾道市立東生口小学校
---------	------------------------	--	------------

評価計画					自己評価					学校関係者評価			改善計画	
b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月	1月	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価			l コメント	m 改善案
					g 達成値	g 達成値				イ	ロ	ハ		
確かな学力の向上	◎基礎・基本の徹底	○学力分析に基づく国語科授業研究を通して、指導法の改善を図る。 ○チャレンジタイムの充実を図る。	百マス計算を○分以内に行い、正答率80%以上国語・算数の単元毎のテスト【観点別国語言語の漢字・算数表現処理】80点以上の通過率国・算80%の達成基礎・基本定着状況調査及び学力テスト昨年度より各学年3ポイントアップ	80%	80% 82% 77% 67%	74% 86% 83%	101%	A	チャレンジタイムを中心に短時間に集中した繰り返しの練習をさせたり、補充学習を行ったりすることで、目標値はほぼ達成できた。今後は算数タイムで学力分析において課題となっている領域に重点をおいて取り組んだり、活用にも継続して取り組んだりしていく。	○			○基礎基本定着のための百マス計算や漢字練習等、日々の地道な取り組みが大切だと思います。 ○これらの取り組みが成果を上げるためには、楽しく続けられる工夫が大切だと思います。読書や教科の学習に苦手意識を持たせない取り組みの工夫が必要だと思います。 ○算数の図形領域の力を付けるために折り紙を取り入れてみるのも一つの方法だと思います。 ○長編の本を1冊読み切らせる体験をすることで、もっと読書に興味を持たせることができると思います。	○学力テストの分析に基づいてチャレンジタイムを充実させ基礎学力の定着を図っていく。さらに、自己評価表を持たせたり評価の工夫を行いながら進めていく。 ○算数科において、本校の児童の課題である領域の図形領域の力を付けるために折り紙の工夫を行いながら進めていく。 ○読書において、読書時間が定着するように家庭と連携しながら進めていく。読書貯金や目標のページ設定をするなどしながら長編の本も読み切らせていく。
	◎論理的思考力の育成	○算数科の授業研究を実施し、指導法の改善を図る。 ○言語技術の活用を図る。	児童意識調査による肯定的評価90% 単元末算数科テスト（数学的な考え方）得点平均80点以上80%以上 指導通りにノートを活用 各学年の発言形式に沿った発表	90% 80% 90% 80%	93% 78% 73% 74%	90% 70% 77% 78%	93%	B	5つの表現様式の活用やペア学習を取り入れたことによってお互いの考えを交流することができた。しかし、集団交流の場において、論理的に思考する表現力が不十分である。そこで今後授業の構想力を高め指導法の改善を図り、ノート指導の研修を通して児童の論理的思考力を高めていく。	○				
	◎読書活動の活性化	○読書環境の充実を図る。	目標読書時間の設定と達成度85%以上（平日低15分・中20分・高30分、休日低中30分・高60分以上）	85%	78%	80%	94%	B	図書委員会の活動の活性化や読書ボランティアの協力・瀬戸田図書館からの貸し出しなどから読書への興味関心が高まった。毎日の読書も習慣化している児童も増えてきた。しかし家庭での読書には時間に個人差があり個々に対応していく必要がある。また、本の内容も偏りがちなため、色々なジャンルの本を薦めていきたい。	○				
豊かな心の育成	◎道徳の時間の充実	○授業研究を実施し、指導法の工夫・改善を図る。	児童の道徳授業への肯定的評価3/4 道徳コーナーへの掲示毎月1枚	85% 100%	87% 100%	86% 100%	101%	A	道徳の授業を通して、児童の道徳的価値を高めており、日常生活において行動化できる児童が増えてきた。道徳コーナーに資料を掲示し、児童に学習内容をふり返らせることによっても、道徳的意識を高めることにつながっている。さらに多くの児童の道徳的価値が高まるようにするために、道徳の授業において教材発掘や授業改善を図っていく。	○			○人に言われて挨拶をするのでなく、自発的に挨拶ができるような人間関係と学校の雰囲気作りが大切だと思います。 ○校内環境もどんと整備されているように感じます。 ○百人一首や名文暗唱など伝統文化を伝承することに大賛成です。	○挨拶も発言も、相手の目を見ていうことを指導していく。目を見ることで自信をもたせ、挨拶も元気な声で言えるように家庭と連携をとりながら指導していく。 ○校内校外を問わず、自分たちの学校や地域をきれいにしていこうという意識を持たせていく。 ○計画的で、学習効果を意識した掲示を工夫していく。また、各学年に対応した名文の暗唱を継続していく。
	◎道徳の時間に身に付けた道徳性の生活化	○気持ちの良い挨拶と返事の習慣化を図る。（大きな声で・相手を見て・自分から進んで・笑顔で）	あいさつと返事の習慣化（85%以上） 毎月1週間重点目標（生活点検）10項目中90%達成した児童の割合	85% 90%	87% 66%	78% 82%	91%	B	校内では大きな声で相手を見て挨拶をする児童が増えてきている。しかし、地域の人に進んで挨拶できないという課題がある。進んで元気な声であいさつできるよう地域とのつながりを深めていきたい。生活点検の結果が、前回に比べ数値がよくなってきたのは、どの学年も、点検表に基づいた振り返りと次への目標設定の継続した取組が必要である。	○				
	◎体験活動の充実	○「学習のサイクル」（体験→振り返り→活用）を用いた体験活動を実施する。	地域・保護者の参画を含んだ体験活動（年2回）を行った結果の児童の肯定的評価	90%	100%	86%	96%	B	道徳授業地域公開の後、保護者や地域の方々のクリーン大作戦により、児童の規範意識が高まり行動化につながっている。休み明けの学校の運動場にもゴミを見かけることが無くなった。課題としては、各学年に応じた多様な体験活動を各教科と関連させながら充実させていく。	○				
	◎学習環境づくり	○豊かな学習環境づくりを推進する。	季節感のある掲示学期に2回 伝統文化と係わる文・詩の暗唱 毎月実施	100% 100%	100% 90%	100% 100%	100%	A	玄関・廊下や階段、教室の掲示板上には、児童の学習の成果を掲示することができた。名文暗唱は、担任が課題を早めに行ったことで、児童も暗誦する時間が確保され、全員が合格することができた。また、合格証が発行されたことも児童の励みになった。課題としては、掲示物は計画的に学習の効果を意識した内容にしていこう。	○				
健やかな体の育成	◎基本的生活習慣の定着	○3点固定（早寝・早起き・朝ご飯）の生活リズムの定着を図る。	早寝・早起き・朝ご飯の実施率80%	80%	89%	89%	111%	A	生活点検表の活用により、児童自身が自己評価でき保護者の協力を得て早寝・早起き・朝ご飯の目標値が達成できた。今後は児童の個別の実態をつかみ家庭と連携し、学校保健委員会の充実も図りながら学校全体としての重点的な取り組みを行う。	○			○自分が「だんだんよくなっている」と実感(自己評価)できるような生活点検表をいろいろな工夫してみて下さい。 ○マラソン大会などしてみたらどうでしょう。	○業間マラソンで培った走力を評価する場として、マラソン大会を計画し、児童が意欲的に自分の記録を伸ばそうとする姿勢を持つことができるようにする。 ○今年度の児童の実態を踏まえ、点検表の内容項目の点検を行う。
	◎基礎的な運動能力の向上	○体力・運動能力調査の結果を活用した体力づくりの推進を図る。	業間マラソンで運動場5周以上走る児童の割合 毎学期毎にトラック5周のタイムを測定し、1学期の記録より2学期記録向上者30%以上 3学期記録向上者50%以上	85% 記録向上者50%	100%	97% 50%	109%	A	4分間走を継続しているため、ほとんどの児童が5周以上走ることができるようになった。また、記録も良くなってきている。さらなる記録更新のために、より高い目標をもたせて取り組ませていく。また、児童のタイムを記録に残し、変化が見え児童に自覚できるような取り組みをしていく。	○				
信頼される学校	◎地域人材の活用による特色ある教育活動の推進	○地域人材をゲストティーチャーとして積極的な活用を図る。	ゲストティーチャーによる肯定的評価3/4 保護者のアンケートにより肯定的評価 3/4	80%	100%	100%	125%	A	地域人材をゲストティーチャーとして招き授業はどの学年も活用することができた。今後は地域人材のリストを整理し、広く人材の開拓をしていく。	○			○教育活動に、懸命に取り組んでおられる様子がうかがえます。 ○お届け頂いている学校便りを読み返しています。	○道徳や総合的な学習の時間等の中で、保護者や地域の方々に授業に参加して頂く機会を増やしていく。地域を大切にしていこうとする意欲を育てていく。活動時の挨拶や言葉遣いについても指導をしていく。 ○地域や保護者からの意見や要望について迅速誠実な対応を行う。学校便りや学級便りが読んでもらいたくすくなるよう、写真や内容を工夫していく。HPの内容の充実を図る。
	◎保護者・地域の方との信頼関係の深化	○通信・ホームページ等による学校情報の積極的な発信を行う。	学級・学校便りは月2回以上（児童の作文・日記・作品・写真など学習の様子を提示）ホームページ更新は月1回以上	100%	85% 100%	79% 100%	90%	B	学校便りを大判にして、地域の方や保護者が読みやすいように工夫し、学級の情報を発信した。学級便りも構成を工夫し読みやすくなった。今後HPの更新を計画的に行い、児童のタイムリーな情報や地域の情報も採り入れて、内容面の充実を図っていく。	○				

【自己評価 評価】

A：100≦（目標達成）

C：60≦（もう少し）<80

B：80≦（ほぼ達成）<100

D：（できていない）<60

【外部評価】 イ：自己評価は適正である。ロ：自己評価は適正でない。 ハ：わからない。

